

○ 単元「光小に残そう，輝いている自分―表現活動を通して―」（光小学校）

1 単元指導計画

1-1 単元「光小に残そう，輝いている自分―表現活動を通して―」（全38時間）

担当者 平上 泉 藤井 里枝 徳島 朱美

1-2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学年の子どもたちは，1学期「人との出会いを通して自分を成長させよう」というテーマで4人のゲストティーチャーを迎え話を聞いた。それぞれの方が仕事を通しての生き方や考え方を話してくださり，自分を見つめ直すきっかけにすることができた。そして，「こんな自分でありたい」ということをまとめた『自分成長プロジェクト』をつくった。それによって，普段，授業や集会等で自信がもてず，自分の思いが出しにくい児童も，自分を表現したいという思いをもっていることが分かってきた。スポーツフェスティバルの表現種目『TAKIO ソーラン2』では，自分を出しにくい児童も，練習を重ねるうちに表現する喜びを感じ，さらによいものを求めて自分を高めようとすることができた。

2学期，修学旅行では，単に歴史学習をするだけでなく，見学地で歴史を守っている人や働く人たちの生き方に視点をあてて聞きとりをして，自分の生き方を考えた。そして，学習したことをグループでまとめ，いろいろな表現方法で発表し，学年で交流し合った。また，なかよしコンサートでは，6年生として自信をもって歌いあげ，美しい歌声でお客さんに感動を与えることができた。

しかし，自分を出しきれず友だちに流されたり，うまくコミュニケーションをとれなかったりという実態もある。また，自分の成長やよさを見い出す機会もなく，自分に自信がもてない児童も多い。

(2) 教師の願い

児童の実態から，自分を思いきり表現する方法を見つけ，表現活動をすることで，今まで知らなかった自分らしさに気づいたり，自分を表現する喜びを感じたりできるであろう。また，まわりの人に認められることによって，より自信をもち，積極的な生活態度になっていくであろう。さらに，ゲストティーチャーとのふれ合いを通して，生き方を学んで人間的に成長したり，コミュニケーション力をつけることができるであろう。

そして，本校の「総合的な学習の内容系列表」の項目「自分の成長・いのち・健康」にある「身体の成長に伴って心も成長していることを知り，お互いの人格を認め合うことにより，よりよい人間関係を築こうとすることができる」「様々な人の生き方にふれることにより，自分を見つめ，より自分を成長させ，自分なりの生き方を追求することができる」ような子どもたちに育ててほしい。

―「自分なりの生き方を追求できるようにするために」―

○自分の考えがもてるように

日々の学校生活で培ってきた「自分の考えをもつ」ということを，総合的な学

習の中では、テーマを設定したり、グループ活動をしたりする中で、さらに育てていく。

○自分を好きになれるように

今の自分をしっかりと見つめ、自分の長所、短所を知り、目標をもって活動をしていくことで、自分にしかない自分のよさに気づき、今の自分に自信がもてるようにしていく。

○自分らしさを表現できるように

人に流されず、自分に合った、本当にかがやけるものを見つけられるように支援し、個人の表現力を高める。

—「よりよい人間関係を築こうとすることができるように」—

○人との関わりを大切にできるように

グループ活動を通して、お互いが尊重できるような人間関係を築くことができるようにする。

○コミュニケーション力をつけるために

活動に意欲をもち、積極的にゲストティーチャーと関わり、学ぶことで、コミュニケーションの大切さに気づけるようにする。

1-3 単元の目標

自分を思いきり表現する方法を見つけ、ゲストティーチャーの話を聞いたり友だちと協力し合ったりする活動を通して、自分を表現する楽しさや伝える喜びに気づき、自信をもって生活することができる。

1-4 単元の評価規準

○ 関心・意欲・態度

①自分のよさを見つけ、自分を磨き、伸ばしたいと意欲的に活動に取り組むことができる。

②友だちのよいところ、学ぶべきところを進んで見つけようとすることができる。

○ 思考・判断

①光小に、自分のどんな姿を残していきたいのかを考えることができる。

②友だちやゲストティーチャーのよいところから、自分に生かせるものを考えたり、見つけたりすることができる。

○ 技能・表現

①相手を意識しながら自信をもって自分らしさを表現し、伝えることができる。

○ 知識・理解

①自分の長所や短所に気づくことができる。

②今まで気づけなかった友だちのよさやゲストティーチャーのよさに気づくことができる。

③自分のよさが分かり、より自分を成長させる方法を見つけることができる。

1-5 学習過程と評価計画

	学習活動	教師の支援と 指導上の留意点	評価の観点				主な評価の資料と その活用
			関意態	思判	技表	知理	
動機づけ ⑤	<p>1. 卒業を前にして、今の自分の成長をふりかえり、カードに書く。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長したところ ・成長したきっかけ ・これからどんな自分になりたいか。 <p>2. 友だち、家族、先生などからよいところと、がんばってほしいところを書いたメッセージをもらい、自己分析表「今の自分」を作る。(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のいいところ ・直したいところ <p>3. 「今の自分」を交流する。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちのよさ ・成長させたいと考えているところ 	<ul style="list-style-type: none"> 支 今の自分をしっかり見つけることができるように視点を明らかにする。 支 前向きに考えられるように卒業生の作文や先生の体験を紹介する。 支 小学校生活の締めくくりであることが意識できるように卒業の日の自分の姿をイメージさせる。 支 お互いに素直な気持ちを語り合えるように事前に友だちを大切にするとはどういうことか語っていく。 支 自分のよさに気づくことができるように本人が気づかないところは声をかける。 ・ 聞く視点を明らかにする。 支 聞き手を意識した発表をするように助言する。 支 成長にはきっかけがあるということに気づくことができるように例を紹介する。 				①	<p>学習カード①の分析</p> <p>自己分析表「今の自分」の分析</p> <p>② 活動中の観察 学習カード②の分析</p>
	問題把握 ①	<p>4. 自分の成長の足跡を残していく方法、より自分を成長させていく方法を見つける。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇 ・歌 ・太鼓 ・琴 ・手品 ・ダンス ・体操 ・ソーラン節 	<ul style="list-style-type: none"> 支 一人一人が自分らしい方法を考えられるように個人面談をする。 支 具体例を挙げながらアドバイスをする。 支 表現活動に対して意欲がでてくるように先輩が生き生きと表現している姿をビデオで見せる。 				①
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>光小に残そう、輝いている自分 —表現活動を通して—</p> </div>							
計画 ④	5. グループごとに計画をたてる。(4時間)	<ul style="list-style-type: none"> 支 活動の見通しがもてるようにカレンダーを準備する。 				①	活動中の観察

<p>追求 1 ⑰</p>	<p>6. 計画にそって、発表会に向けて追求する。(17時間) ・調べる。 ・ゲストティーチャーの話を聞く。 ・練習する。</p>	<p>支 ① ゲストティーチャーをお願いするなどの例を挙げて、自分を成長させるための多様な追求方法をアドバイスする。 支 ② 相手を意識した発表になるように、声の大きさ、体の動きなど具体的なアドバイスをする。</p>	①	②	①	②	<p>活動中の観察 学習カード⑤の分析 個人の資料ファイル</p>
<p>追求 2 ⑱</p>	<p>7. グループ間で交流して、追求を深める。(6時間) ・相互評価 (よい点・改善点について) ・表現方法の工夫</p>	<p>支 ① よりよい表現をつくっていくため、交流する視点を明らかにし、お互いの発表を見合っ て意見を出し合う。</p>	②		①		<p>活動中の観察 学習カード⑥⑦の分析</p>
<p>まとめ ・ 発展 ⑲</p>	<p>8. 発表会をする。(3時間) 9. 卒業に向けて、より自分を高めていける方法を見つける。(2時間)</p>	<p>支 ① 活動を始めた時の、自分が伝えなかったものは何かを、もう一度思い起こさせ、意識して発表できるようにする。 ・中間発表と比べて成長した姿を認める。 支 ② これからの生き方を考えられるように、今までのポートフォリオを振り返ったり、作文にまとめたりして、自分の成長に気づくことができるように助言する。</p>			①	③	<p>発表会の観察 学習カード⑦の分析 作文の分析</p>

1-6 評価資料 (略)

1-7 評価基準

	学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					3	2	1
動機づけ ⑤	1. 卒業を前にして、今の自分の成長をふりかえり、カードに書く。(1時間)	知識・理解①	自分の長所や短所に気づくことができる。	学習カード①	自分に興味を持ち、長所と短所を複数書いている。	客観的に見た自分の長所と短所を1つずつ書いている。	自分の長所と短所をどちらか一方だけ書いている。
	2. 友だち、家族、先生などからよいところ、がんばってほしいところを書いたメッセージをもらい、自己分析表「今の自分」を作る。(3時間) ・自分や友だちのよさ ・成長させたいと考えているところ	関心・意欲・態度①	自分の成長させたいところを見つけることができる。	自己分析表(個人で作成)	身近な人からもらったメッセージカードをもとに、自己分析表の中に、自分ののばしたいところを複数書いている。	身近な人からもらったメッセージカードをもとに、自己分析表の中に、自分ののばしたいところを1つ書いている。	身近な人からもらったメッセージカードをもとに、自己分析表の中に、自分ののばしたいところを書いていない。
	3. 「今の自分」を交流する。(1時間)	知識・理解②	友だちが、成長させたいと考えていることを書くことができる。	学習カード②	友だちの成長させたいと考えていることなど複数書いている。	友だちの成長させたいと考えていることを1つ書いている。	友だちの成長させたいと考えていることを書いていない。
問題把握 ①	4. 自分の成長の足跡を残していく方法、より自分を成長させていく方法を見つける。(1時間) ・劇 ・歌 ・太鼓 ・琴 ・手品 ・ダンス ・体操 ・ソーラン節	思考・判断①	光小に、自分のどんな姿を残していきたいのかを考えることができる。	学習カード③	自分の成長した姿を表現するための方法を自分で考えている。	自分の成長した姿を表現する方法を相談して考えている。	自分の成長した姿を表現する方法を助言を受けて考えている。
計画 ④	5. グループごとに計画をたてる。(4時間)	関心・意欲・態度①	自分のよさを見つけ、もっと自分を磨き、伸ばしたいと意欲的に活動にとりくむことができる。	活動中の観察	グループのリーダーとして、みんなをまとめ、計画を立てている。	グループの中で、自分の思いを出し、計画を立てている。	グループの中で、自分の意見を出していない。
追求 1	6. 計画にそって、発表会に向けて追求する。(17時間) ・調べる。 ・ゲストティーチャーの話を聞く。 ・練習する。	関心・意欲・態度①	自分のよさを見つけ、もっと自分を磨き、伸ばしたいと意欲的に活動にとりくむことができる。	活動中の観察	リーダーとして、みんなをまとめ、発表のための準備をしている。	よりよい発表をするために、友だちと話し合いながら、準備を進めている。	自分で準備を進めていない。
		思考・判断②	ゲストティーチャーや友だちのよいところから、自分に生かせるものを見つけたり、生かすことができる。	学習カード⑤	ゲストティーチャーや友だちのよいところから、自分に生かせるものを考えたり、見つけたりして、取り入れている。	ゲストティーチャーや友だちのよいところから、自分に生かせるものを考えたり、見つけたりしている。	ゲストティーチャーや友だちのよいところを見つけていない。

⑬		技能・表現①	相手を意識しながら自信をもって表現することができる。	活動中の観察	声の大きさ、体の動き、表情、など複数のことに気をつけて表現している。	声の大きさなど1つのことに気をつけて表現している。	支援されて、気をつけながら表現している。
追求2 ⑥	7. グループ間で交流して、追求を深める。 (6時間) ・相互評価 ・表現方法の工夫	関心・意欲・態度②	友だちのよいところ、学ぶべきところをすすんで見つけようすることができる。	学習カード⑥	友だちの発表を見て、自分たちの発表に生かせることを複数書いている。	友だちの発表を見て、自分たちの発表に生かせることを1つ書いている。	友だちの発表を見て、自分たちの発表に生かせることを書いていない。
まとめ・発展 ⑤	8. 発表会をする。 (3時間) 9. 卒業に向けて、より自分を高めていける方法を見つめる。(2時間)	技能・表現①	相手を意識しながら自信をもって表現し、伝えようとするすることができる。	学習カード⑦ 活動中の観察	相手を意識した表現で、自分たちが伝えたいことが、わかってもらえるよう、表情や声の調子に工夫がみられる発表をし	相手を意識した表現で、自分たちが伝えたいことが、わかってもらえるような発表をしている。	相手を意識した発表をしていない。
		知識・理解③	自分のよさが分かり、さらに伸ばしたいことを見つめることができる。	作文	自分のよさとさらに伸ばしたいことを複数書いている。	自分のよさと、さらに伸ばしたいことを1つずつ書いている。	自分のよさか、さらに伸ばしたいことのどちらか一方を書いている。

2 授業と評価の実践

2-1 指導と評価の一体化の実践

(1) 学習活動1 今の自分をふりかえりカードに書く。

① 指導・学習の過程

卒業に向けて、子どもたちは、もっと自分を成長させたいという思いをもっていた。リバータイムでも、自分が成長できるような活動をしたと考えていたので、活動の導入として、自分をふりかえるところから始めた。自分を成長させるためには、自分自身を見つめ直すことが大切である。自分を見つめ、自分の長所や短所を知ることで、卒業に向けて目標をもって活動していけるよう、視点をしばって、自分の成長をふりかえった。学習カード①を使って、自分の長所、短所、自分が成長したと思うこと、自分をもっと成長させたいと思うことの4点について、それぞれ記述する形で行った。子どもたちは、これまで自分の長所や短所について考える機会がなかったからか、悩みながら書いていた。

② 評価結果

学習活動後に、学習カード①を分析して評価を行った。長所、短所を複数書いた子を「3」、一つずつ書いた子を「2」、どちらかひとつを書いた子を「1」として評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
知識・理解	自分の長所・短所に気づくことができる。	24人	45人	15人

上の評価結果にあるように、過半数を超える子が69人、一つずつ以上自分の長所と短所を見つけることができている。しかし、15人の子どもは、どちらか一方しか書くことができなかった。しかも、全員が、短所は書けたが長所を書くことができなかった。自分のよさが分からず、自己肯定感もてていない子どもがいるということが、はっきりと表れた結果であった。また、評価結果2、3の子どもも、自信をもって自分のよさを書いている子が少ないことも分かった。次のような意見がその典型である。

自分の短所、成長させたいところはすぐに思いついて、すぐに書けたけれど、長所や成長したことがなかなか見つからなくて大変でした。でも、よくよく考えると少しずつ浮かんできました。だけど自信がありませんでした。(F児)

いろいろ書いたけれど、特に難しかったのが長所でした。短所は結構見つけやすかったんですけど、長所が見つからないので、長所をがんばって見つけたいと思いました。もっといい所を増やしていきたいです。(H児)

③ 指導の改善と実施

普段、子ども達のいいところを見つけて、その子の自信になるように声をかけて

きたつもりだったが、評価結果から、やはりまだまだ課題があると感じた。そこで、自分の長所や短所を、他の人から聞いてみたらどうだろうか子ども達に提案した。すると、どの子も聞いてみたいと意欲をみせた。子どもたちが、自分は何からどう見られているのか知りたいという思いを強くもっていることを感じた。

教師も、もっと子どもをしっかりと見て、理解していくことが必要と感じた。子ども達の心に響く声かけができるように、日常生活の中でより児童理解を心がけていくことを確認した。

(2) 学習活動2 メッセージカードをもらい自己分析表「今の自分」を作る。

① 指導・学習の過程

「自分のことをよく知っている人からメッセージをもらいたい」という子ども達の意見から、家族、友達、先生にメッセージを書いてもらうことにした。子どもたちは、それぞれメッセージカードをデザインして、作成していった。そして、「自分のいいところ、これからがんばってほしいところ」を書いてくれるようお願いして、作成したカードを渡した。担任も、学級の子どもたち一人一人にメッセージを書くことにした。

友達にメッセージを書く時には、お互いに素直な気持ちを書き合うことができるように、教師の体験を交えながら、本当に友達を大切にするとどうしたことなのか考えさせ、メッセージをもらった人がやる気のあるような表現で書くことを支援していった。また、友だちからのアドバイスを自分に生かそうとすることが、自分を成長させることにつながるということも話していった。

〇〇くんのいいところは、ふだんからよくしゃべっていて明るいところです。それに、友だちを大切にしている休けい中も友だちにかこまれていてすごいなあと思いました。もう少し最後までやりぬく力がつくといいと思います。がんばってね。(友だちから)	□□さんのいいところは、何事にもチャレンジして失敗してもあきらめないところです。字をていねいにゆっくり書いているのがすごいと思います。努力した方がいいところは、自己決定力をつけることです。これからもがんばって下さい。(友だちから)
登校班で低学年への気配りができるようになったり、朝一度声かけをすると自分で起きることが出来るようになったことは、すごいと思います。見通しをもって計画をたてたり、時間内にやりきる力をもっともっとつけてほしいと思います。(母から)	

子どもたちは、書いてもらったメッセージカードを何度も読み返し、嬉しそうにしていた。メッセージカードは、画用紙に貼り、それをもとに、改めてこれから自分を成長させていきたいと思ったことや考えたことを書き加え、一枚の自分分析表「今の自分」としてまとめた。

② 評価結果

出来上がった自己分析表「今の自分」をもとに、自分の長所や短所を知った上で自分を成長させようという意欲が持っているか評価した。自分の成長させたいこと

を複数書いた子を「3」、一つ書いた子を「2」、一つも書かなかった子を「1」とした。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲 態度	自分の成長させたいことを見つけることができる。	40人	44人	0人

結果は、評価結果「3」の子どもが40人、評価結果「2」の子どもが44人で、全ての子どもが自分の成長させたいことを書くことができていた。学習活動1で長所の書けなかった子は、友だちからのメッセージを見て、自分のよさに気づくことができた。また、そのよさをさらに伸ばしていきたいという前向きな考えをもつようになっていた。例えば次のようである。

ぼくは自分の長所というものが見つからなかったけど、みんなの意見を聞いてぼくにもいいところがあると分かりました。ぼくにも長所があるなら、その長所をしっかりと使い、短所は少しずつでも直していきたいと思います。(K児)

自分のよさを見つけられたり、自信をもったりするためには、自分の身近な人に認められるということが重要になってくることを感じた。

保護者からの温かいメッセージも子どもたちはとても喜んでいた。普段なかなか伝えられない気持ちを伝え合えるいい機会にもなったようだ。また、子どもたちが書いたメッセージカードには、教師が気づかない友達のよさがよく書かれており、子どもたちが、お互いのことをよく見ていることにも気づくことができた。評価結果には表れていないが、メッセージカードを交換したことで、子ども同士の仲がより親密になったのも成果であった。

子どもたちは、これまでに自分のことについて客観的に考える機会がなかったので、新鮮に感じ、興味をもって活動できた。自分のよさを確認できたことで、自分を成長させたいという思いがさらに強くなり、いろいろな活動への意欲へとつながった。

自分では気づかなかったことが書いてありました。〇〇さんが一番正直に書いてくれているなと思いました。これを見て、傷つきはしなかったし、よかったと思いました。これからも努力していきたいです。(M児)

(3) 学習活動3 「今の自分」を交流する。

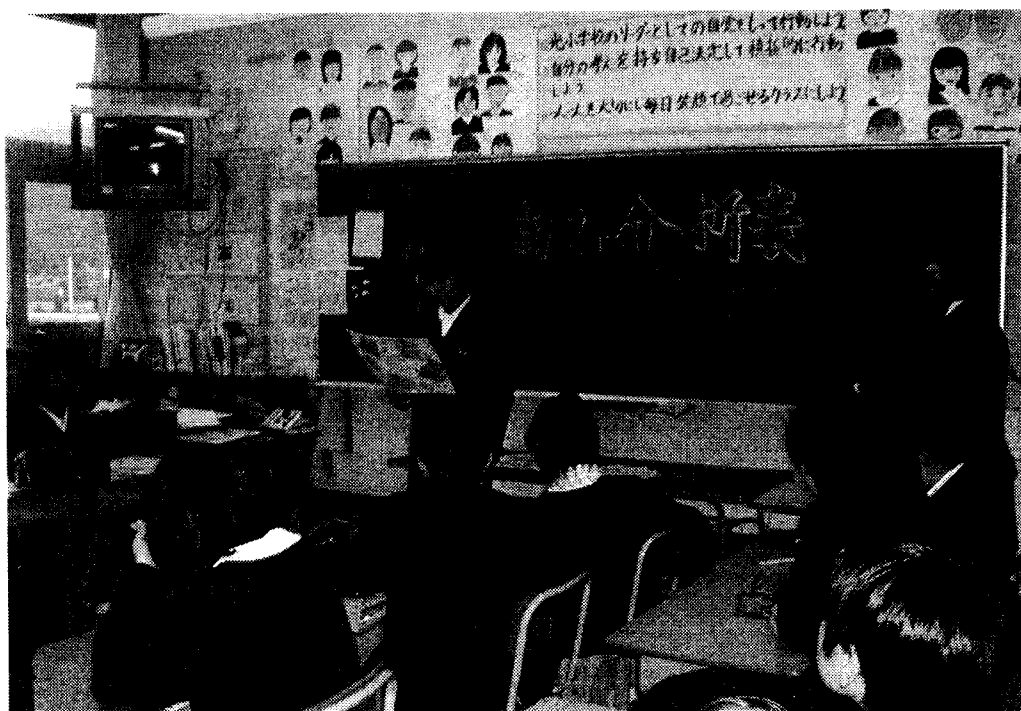
① 指導・学習の過程

「今の自分」を交流し合うことで、友達と共に自分を成長させようという意欲をもってほしいという願いから、ポスターセッションを行った。

発表者には、自分の言いたいことが伝わるよう、聞き手を意識した発表をするよう助言した。聞く方では、友達のいいところ、友達が成長させたいと思っているところの2つに視点をしばって聞くようにした。

一人ずつ前に出て、「今の自分」をもとに発表していった。学習活動2を通して、自分の考えや思いをしっかりともてていても、いざ発表となると声が小さくなったり、つまってしまったりする子どもも何人かいた。しかし、どの友達の発表も子どもたちは静かにしっかりと聞いていた。そして、全員が、友達の発表に対して感想を一回は言うことができた。

交流の後、学習カード②を使って、自分が満足できる発表ができたか、友達が成長させたいと考えていることを見つけることができたか、ふり返りをした。



② 評価結果

交流を通して友達の成長させたいことを見つけることができたか、学習カード②を使って評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
知識・理解	友達が成長させたいと考えていることを書くことができる。	74人	10人	0人

74人というほとんどの子どもが、友達が成長させたいと考えていることを複数見つけて書いていた。そのうち、一つ見つけて書いていた子どもは10人いた。今回のポスターセッションが、自分を出す内容だっただけに、これまで話したりしたことのない友達の思いを知ることができたようだった。また、お互いの直したらいい

い所も伝え合えたことで、自分だけでなく、友達も同じように自分を伸ばそうと考えていることを身近に感じることができたようだ。

<p>〇〇さんと□□さんが、意見を言うことができないので、そこを成長させたいと言っていたけれど、二人がいう意見は「そうか」と思う意見が多いので、言えれば意見の輪も広がりそうだなあと思いました。一つ一つの意見がみんなちよつとずつ違うし、きっとそれを目標にしようとしたエピソードも違うと思いました。でもみんな共通していたのは、そこが直ればすごく良くなると思うところです。がんばりたいです。(T児)</p>	
<p>友達の発表を聞いて、心だん元気よく遊んでいる人でも自分のいけないところなどが分かっていて、それを直そうと思っていたから、よかったですと思いました。(M児)</p>	<p>みんなそれぞれ、自分の成長させたいところがちがっていいなあと思いました。私もちがったけれど、自分が成長するためにリバータイムだけではなく、普段も自分が成長できるようなことがあったらやりたいです。(S児)</p>

また、この交流会では、「満足のいく発表ができた」と答えた子どもが67人、「できなかった」と答えた子どもが17人であった。できなかった理由としては、「声が小さくなってしまった」「覚えられなくて原稿を見てしまった」など、発表の仕方に満足できなかったものであった。反対に、満足できたと答えた子どものほとんどが、「自分の言いたいことを言うことができた」という理由からだった。また、「友達が真剣に聞いてくれたから」という理由も多かった。発表した内容が、自分を見つめ、よく考え、思いが詰まった内容だっただけに、みんなの前でそれを伝えることができた満足感を得ることができたようだ。また、自分の成長させたいところを、友達にも理解してもらい、はっきりさせることができた。

(4) 学習活動4 より自分を成長させていく方法を見つける。

① 指導・学習の過程

自分のいいところ、もっと成長させたいところを再確認し、交流した子どもたちは、より自分を伸ばし、自分を表現することを目指して、学年全体で、「光小に残そう耀っている自分—表現活動を通して—」というテーマを決め、活動がスタートすることになった。

まず、表現方法を考える前に、学年全体で確認しておくことを話し合った。その結果、自分自身が成長できる内容であること、見た人に感動が与えられるものであること、自己満足ではなく本物を追求するためにゲストティーチャーをお願いすることの3点を確認し合った。また、子どもたちが表現方法を考える参考になるように、先輩たちの表現活動のビデオを見せたり、考えにくい子どもには個人面談を行い、アドバイスをしたりすることにした。さらに、友達に流されず本当に自分のしたいことを見つけることが、自分の活動の意欲や満足感につながり、自分を成長させることになるということを常に意識できるように支援し続けることにした。

いよいよ表現方法を考える活動であるが、初めは、絵、写真などの物を通して自分を表現する方法を考えていた子どもが多かった。しかし、今の子どもたちの実態

から、体を使って自分を表現する楽しさを味わわせたい、そうすることが、子どもたちにとって本当に満足感が得られるはずだと考え、「自分自身の体を使った表現にしよう」という声かけも行った。その結果、子どもたちは、劇、歌、淀川太鼓、琴、手品、ダンス、体操、ソーラン節の8つの表現方法を見つけ、グループができた。

② 評価結果

友達に流されず、本当に自分のやりたいことを見つけさせるために、学習カード③に表現方法を書かせた。自分で考えて表現方法を見つけることができた子どもを「3」、友だちと相談しながら見つけた子どもを「2」、教師から助言を受けて見つけた子どもを「1」として評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断	光小に自分のどんな姿を残していきたいのかを考 えることができる。	84人	0人	0人

全員の子どもたち84人が自分の成長した姿を表現するための方法を自分で考えることができた。今まで、調べ学習中心のリバータイムをやってきた子どもたちにとって、表現活動をテーマにしたリバータイムは興味深く、活動意欲がわいてくるものであったようだ。どの子の頭の中にも、その表現活動をして耀いている自分の姿が浮かんできたのであろう。

今年のリバータイムはすごく楽しみです。ソーラン節！1年間ずっとやってきたことをやります。私はソーラン節が大好きです。自分たちでオリジナルのはっぴを作ります。すごく楽しみです。(U児)

最近のリバータイムがとても楽しいです。自分のしたい事ができるので毎日がとても楽しみです。明日から琴について調べたり音を出したりします。「かがやける自分」というのに私もなりた
いし、最後のリバータイムだから楽しいリバータイムになるといいです。(N児)

(5) 学習活動5 グループごとに計画をたてる。

① 指導・学習の過程

次は、グループごとに表現方法にそっていかに自分を伸ばしたい長所を具体化していくか、その計画をたてる支援を行った。これから活動を一緒にしていくグループのメンバーと顔をあわせ、リーダーを決定し、グループテーマを決めることにした。グループで追求するテーマは、全体のテーマの「光小に残そう、輝いている自分」をもとに、自分たちの活動の実態に合わせた具体的なものになるように考えた。

計画表(学習カード⑤)には、決定したテーマや予定を書き込んだ。さらに、ゲストティーチャーを探し、連絡をとって練習日程の調整をした。どのグループも本物に触れたいという願いが強く、ゲストティーチャーを探す段階では、地域の

人材情報を意識するグループもあった。

② 評価結果

活動の中間(2/4時間)終了後に評価をした。グループの中でリーダーシップをとりながら、みんなをまとめて計画を立てている子どもを「3」、グループの中で自分の意見を出しながら計画を立てている子どもを「2」、グループの中で意見を出していない子どもを「1」とした。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲 態度	自分のよさを見つけ、もっと自分を磨き伸ばしたいと意識的に活動に取り組むことができる。	19人	36人	29人

学習カード④と観察での評価を行った結果、グループの中で自分の意見を出していない子が29人いた。子どもたちは、前時までの問題把握により、個人がねらっている活動内容についての意識は、各グループの中でほぼ一致していた。しかし、リーダーなどの分担を決める段階になると、活動に対する意識のずれから、衝突を起こすグループや、なかなか決定することができないグループがあった。それぞれのやる気をそがないようにするためにも、一人一人が話し合いに参加し、お互いの意思を伝え合うことの重要性を学んだ子もいた。

③ 指導の改善と実施

具体的な活動の予定を早急に決定させる必要性を感じた。そこで、教師が事前にお願ひしていたゲストティーチャーを紹介したり、学校にボランティア登録をしてくださっている方に連絡したりして、グループのメンバー以外の存在を意識させ、刺激をあたえた。

和楽器に触れる活動をしたいと考えたグループは、以前に教えていただいた方を探し出し、お願ひしていたが、急に都合で来ていただけなくなってしまった。楽器の準備もできず途方にくれたが、子ども達の頼みにより新しいゲストティーチャーに来ていただけることになった。また、一学期に出会った「ソーラン節を多くの人に教える」というボランティア活動していらっしゃるゲストティーチャーが、子どもたちの願ひをきいて、教えてくださることになった。

グループによっては、ゲストティーチャーを見つけられないところもあったので、教師が、いろいろなところにあたって、本物に触れさせることができるよう、こだわって探した。

自分を輝かせるために喜んで自ら選んだ表現方法であっても、いざ具体的な計画を立てるとなると、先の見通しをもつ必要性があり、普段からよく考えて行動している子どもがリーダー性を発揮する場となった。グループの中に、まとめることのできるリーダーが少ない場合は、話し合いを進めていくことが困難になる。学年集会で決めたテーマ設定の時、全員のめあての中に「見通しを持ちたい」があったが、自分の意見をもつことができない子どもや、意見をもちながらも言いだせずにいる

子どもに対しての具体的な支援が必要である。

また、ゲストティーチャーをさがすことについて、地域情報に敏感であることが求められ、得た情報からその方と実際に話をし、ご理解いただき、指導していただくことへの理解を得るまでの行動力が必要である。

くわしい日程の計画を立てることで、次の活動が具体化された。

<p>僕はこの前までリバータイムの進み具合が悪いので、あまり楽しみではありませんでした。でも、うまくいくようになったので、次のリバータイムがすごく楽しみです。(K児)</p>	<p>今日、リバーの計画を立てました。明日は、電話してお願いした三原さんが来てくださいます。僕はしっかり教えてもらって、いろいろな技やなわとびがうまくなったらいいと思います。明日が楽しみでしっかり話を聞きたいです。(A児)</p>
---	---

グループ	テーマ	ゲストティーチャー所属
体操	むずかしい技をみんなで協力し、完成させ自分の思いを体操で表現しよう！	ふくやま体育振興事業団
新福山琴	堂々と琴を弾いて、自分を表現し、自信をつけよう！	生田流筑紫会大師範
劇「悲劇」	一人一人が個性を出し、輝きながら劇をして周りの人を感動させよう！	ふくやま芸術文化振興財団
手品	周りの人を感動させるような手品をしよう！	地域ボランティア
ダンス	自信をもってダンスし、自分を表現しよう！	福山YMCA コミュニティーカレッジ
劇「喜劇」	劇を通して、友達同士の団結力を強め、観てくれる人に楽しさと感動を与えよう！	ふくやま芸術文化振興財団
歌	一人一人が個性を出して輝ける歌を歌おう！	声楽家エリザベト音大講師
ソーラン節	ソーラン節の踊りを極めて、周りの人を元気にしよう！	ふくやま親子劇場
淀川太鼓	淀川太鼓をたたいて自分を精一杯表現しよう！	地域ボランティア

(6) **学習活動6** 計画にそって発表会に向けて追求する。

① 指導・学習の過程

グループごとにテーマに向かっての追及が始まった。

体操グループ

子ども達は、マット運動、ダブルダッチ、跳び箱に挑戦しようと計画していた。初めてゲストティーチャーが来られた日には、自己紹介をし、いつから体操をはじめたのか、これまで体操をしてこられてよかったことは何か、やめたくなったことはないか、などの質問をした。先生は、ひとつひとつの質問に丁寧に答えて下

さり、安全に気をつけることと、けがを恐れずチャレンジしていくことの大切さを話して下さった。

練習が始まってからは、始める前の柔軟体操の仕方や、技ができるようになるまでの段階を踏んだ的確な練習方法などを教えて下さった。おかげで、子ども達は、今まで出来なかった技ができるようになってくる喜びや楽しさを感じながら、意欲的に練習していくことができた。友達と声をかけ合う姿もよく見られるようになり、グループ内でのコミュニケーションもできるようになってきた。うまくできることばかりではなかったが、ゲストティーチャーの適切な指導のもと充実した追求活動をすることができた。

明日は〇〇先生が来ます。自分たちのやりたい事も言って、〇〇先生の話をよく聞きたいです。そしたらアドバイスなどももらえると思うから、しっかりと話を聞きたいです。明日が楽しみになってきました。(K児)

今日は〇〇先生が来て教えてくださいました。最初に側転をしました。私は側転ができませんでした。私と△△さんと□□君3人だけでできませんでした。みんなできるのに私はどうしてできないんだろうと、すごくむなしくなりました。この先がつらいです。

今日、台上前転をやりました。私は最初はすごくこわかったけど、一回うまくいくとできるようになって、2段、3段、4段、5段と増やして行って、マットなしでついに5段ができました。私は、台上前転ができるようになったので、次は側転ができるようにがんばりたいです。

今日は、ハンドスプリングをやりました。私は逆立ちができてきたので、次は、みんながやっているハンドスプリングに挑戦しようがんばってやりました。男子はみんな最後、立ち上がっているけど、私はハンドスプリングをやろうとすると、ブリッジになって立ち上がることができません。次はできるようにしたいです。(F児)

琴グループ

子ども達は、ゲストティーチャーから、琴のひき方だけでなく、生き方もしっかり学べたようだ。

〇〇先生は琴をしていて輝いているなあと思いました。今まで何年間も琴を続けてきていて、本当に好きだから続けているんだということが分かったし、〇〇先生は、自分が夢になれるものを見つけなさいと言っておられたので、私もどんどん見つけていきたいです。あと、苦しい時に苦しいことをすると絶対身につくとも言っておられたので、苦しいことがあっても頑張ろうと思います。〇〇先生が琴をひいている姿を見て、「かっこいいなあー。」と思ったので、これからあんな風にひけるようにがんばりたいです。(S児)

生まれて初めて琴にふれる子ども達は、リバータイムの時間だけでは上達できない。休憩時間や放課後を使って自主練習を行う姿がよく見られた。

休憩時間などに琴の練習をしました。少しずつけどだんだんひけるようになってきているのでこれからも練習を続けて頑張っていきたいです。右手の親指と人差し指と中指に琴づめをつけてひくんだけど、と中で手が痛くなったりして大変です。でも、発表まで時間が少ししかないので聞きに来てくださる人に感動してもらえるような演奏ができるように家にも楽譜を持って帰ってうまくなるようにしっかり練習を頑張っていきたいです。(S児)

こうして、2回目にゲストティーチャーが来られた時には、「子どもってすごい。もう少し難しい選曲をさせてもよかったですね。」という感激の声が聞けた。

琴の素晴らしさを松浦先生に教えてもらった子ども達は、その素晴らしさをたくさんの人に伝えようとパンフレット作りも行った。



ソーラン節グループ

6年生の子ども達とソーラン節の出会いは、5月のスポーツフェスティバルであった。表現種目として学年全員で踊ったことが地域の人々に感動を与え、8月の夏祭り、9月の敬老会、10月の学区民運動会への参加へとつながっていった。「ソーラン節をこれで終わらせたくない」という気持ちが子ども達の心の中にあり、リバータイムの活動のひとつになった。ソーラン節の踊りについて深く知り、自分たちでデザインしたオリジナルのはっぴ作りも行った。型紙作り、ミシン縫いと、大変な作業であったが、出来上がったときの子ども達は、とても満足していた。そのはっぴを着て、幼稚園、介護施設を訪問し、ソーラン節を踊った。自分たちが踊ったソーラン節が周りの人々に大きな感動を与えたことが子ども達の大きな成長へとつながっていった。

行く前は「お年寄りを元気づけたい」という思いだったけど、ちゃんと間違えずに自分らしく踊れるか、本当にお年寄りに喜んでもらえるか不安でした。行ってみると、お年寄りの人がみんな待っていてくださって、「私たちのソーラン節を楽しみにしてくださっているんだな」と思い、うれしかったです。踊った後は、ほっとしたし、お年寄りの人が「迫力があってよかった」とか、「もう一回踊って」と言ってもらえたのでうれしかったです。一番うれしかったことは、私たちの踊りを見て、感動して泣いてくださったことです。このことを生かして、もっとソーラン節をきわめていきたいし、いろいろな人に感動を与えていきたいです。自分らしく輝けるように頑張りたいです。(Y児)



劇グループ

喜劇と悲劇の二つに分かれて、それぞれにテーマを設定して追求した。グループ内でリーダーを中心に配役を決めたり、台本を読んだりする中で、お互いのいいところや、改善した方がよいところを少しずつ出し合った。しかし、はずかしさや自信のなさなどから全体的に声が小さかったり、友だちの演技に対しての思いが言えなかったりと、なかなか舞台を意識した演技にはならず、困っていた。

私のグループは喜劇だから、まじめに面白い演技をしなければいけません。けれど、失敗したとき笑われると、そこがよけいにできなくなってしまいます。グループの人にどう声をかけたらいいか、迷ってしまいます。(Y児)

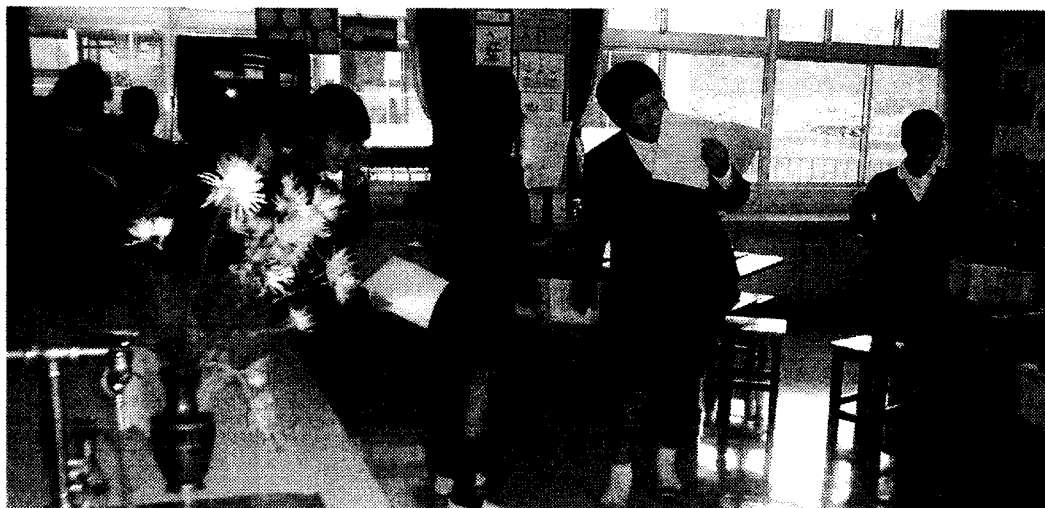
スケジュールを書いていると、思っていたより、時間が足りない気がしました。シナリオをつくったり、全体練習をしたりしていると、すぐに時間がたちます。グループで協力してやっついていかないと、間に合わないの、頑張りたいです。(M児)

そうした中、ゲストティーチャーがきてくださった。舞台の専門用語や専門知識を取り混ぜての細かい指導に、子どもたちは、本物を意識し始めた。また、友達同士お互いの演技の見方も変わり、観客を意識した視点からの、具体的な声かけをするようになり「よいものを創りたい」という意欲が増した。

〇〇先生は、みんなにいろいろなことを教えてくださいました。僕はその中でも役になりきるという言葉が心に残りました。僕も役になりきることは大切だと思うから頑張ってやりたいです。(I児)

この前、芸がないと言われ、少しふてくされたけれど、なんとかしようと思い、友だちが言ってくれたアドバイスで、なんとか動作をつけることができました。みんなも、それぞれの役がさまになってきたので、中間発表も大丈夫だと思いました。(E児)

本人になりきって演じるのは、大変だと思いました。私は悪役や悪い行いをする人物の役をして、輝くのはむずかしいと思っていました。けれど、主役は、その悪い役を演じる人によってひき立てられるから、大切です。グループの中では、お互いを輝かせながら演技しなければいけません。だから悪いことをする役も頑張ろうと思いました。(Y児)



② 評価結果

子ども達は活動後に学習カード⑤でふり返りをした。4時間追及をした後にふり返りをした学習カード⑤の分析と、活動中の観察で、まず、評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲 態度	自分のよさを見つけ、もっと自分を磨き伸ばしたいと意識的に活動に取り組むことができる。	25人	44人	15人
思考・判断	ゲストティーチャーや友達のよいところから自分に生かせるものを考えたり見つけたりして、生かすことができる。	39人	38人	7人
技能・表現	相手を意識しながら自信をもって表現することができる。	16人	48人	20人
知識・理解	ゲストティーチャーのよさに気づくことができる。	19人	50人	15人

追求がはじまったばかりの頃は、どのグループも計画通り進まなかったり、自分たちの活動に見通しがもてなかったりしていた。そのため、どの評価の観点も評価規準1が多かった。

③ 指導の改善と実践

目標をもって意欲的に活動にできるようにするために、活動時間のはじめに、全体で、今日の活動のめあての確認をするようにし、一人ひとりが「何のために活動をしているのか」を意識できるようにした。活動中も、子ども達が常に活動のねらいを意識できるように、励ましの声をかけるようにした。

また、活動後は、全員でその日をふりかえる活動を行うようにした。そして、他のグループの活動状況や、友達のよさ、学んだことが全体の場で交流できるようにした。

すると、問題が起こったり、うまく表現できなかつたりしても、お互いに声をかけあいながら前向きに活動できるようになってきた。また、他の各グループの活動状況が分かることでお互いの刺激にもなり、より良いものをつくりたいという意欲がわいた。

その結果、「関心・意欲・態度」や「思考・判断」の評価が上がってきた。相乗効果で、「技能・表現」に関しても同様の結果が見られた。

④ 評価結果

追求を19時間した後、学習カード⑤でふり返りをした。学習カード⑤を分析して、評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲 態度	自分のよさを見つけ、もっと自分を磨き伸ばしたいと意識的に活動に取り組むことができる。	28人	50人	6人
思考・判断	ゲストティーチャーや友達のよいところから自分に生かせるものを考えたり見つけたり、生かすことができる。	43人	41人	0人
技能・表現	相手を意識しながら自信をもって表現することができる。	32人	51人	1人
知識・理解	ゲストティーチャーのよさに気づくことができる。	19人	52人	13人

ゲストティーチャーが来てくださるようになって、活動内容も充実したものになってきた。意欲をもって活動することで、ゲストティーチャーや友達のいいところを取り入れようとする子どもが増えてきた。

追求の終わりになると、基準1は少なくなってきた。自分たちの表現活動も完成に近づき、子ども達の意欲が高まってきたり、自信がついてきたりしたためと考える。

(7) **学習活動7 グループ間で交流をして、追求を深める。**

① 指導・学習の過程

よりよい表現活動にしていくために、グループごとにお互いを見合う中間発表を行った。「他のグループのよいところ、学ぶべきところをしっかりと見つけよう」ということがめあてであった。

初めて体育館で発表したグループもあったため、段取りが悪く、スムーズに発表ができなかったところや、時間の見通しがもてなくて、長すぎる発表になったところもあった。しかし、自分たちの発表を初めて多くの人に見せることは、緊張感があり、よい刺激になった。また、それまでは、他のグループの活動はよく分からなかった子ども達にとって、とても興味深いものであったようで、どのグループの発表もしっかりと見ていた。発表後、学習カード⑥と⑦を使って、ふり返りをした。

② 評価結果

「関心・意欲・態度」については、学習活動後すぐに学習カード⑥を使って、また、「技能・表現」については活動中の観察と学習カード⑦で評価を行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲 態度	友達のよいところ、学ぶべきところを進んで見つけようとするができる。	79人	5人	0人
技能・表現	相手を意識しながら自信をもって表現し、伝えようとするができる。	8人	58人	18人

子ども達は、他のグループの発表をしっかりと見て、自分たちのグループに生かせることをたくさん見つけていった。79人(94%)の子どもが評価結果「3」だった。それだけ、今回のリバータイムに対する関心意欲が高かったと考える。

しかし、初めて大勢の人前で発表したためか、自分たちのグループの発表に対しては、「緊張してうまくできなかった」「大きな声が出せなかった」など反省点が多くでた。「技能・表現」の評価結果も評価結果「1」が18人(21%)もあり、子ども達にとっても満足できる内容ではなかったようだ。

③ 指導の改善と実施

今回の中間発表では、力を出しきれなかった子ども達が多かったが、できなかったことがバネとなって本番に向けての意欲がさらに高まった。そして発表会を成功させたいという気持ちが強くなってきた。

そこで、中間発表後、学年集会を開いて、見合った感想を言い合う活動をした。評価結果でも「関心・意欲・態度」が高かったように、子ども達は、他のグループの発表をよく見て分析していた。「何を言っているのか分からなかった」「相手を意識して大きな声を出すといい」「下を向いている人がいた」「表情がかたかった」「もっと手を大きく上にあげるといい」「立つ位置を工夫するとよい」など、具体的なアドバイスがどのグループにも出された。子どもたちは、この相互評価を踏まえて内容を修正し、発表会まで追及を深めることにした。

自分たちのどういうところを修正しながら追及していけばいいのかがはっきりしたため、それぞれがめあてをもって活動できた。追求をしていく中で、自分たちの課題が少しずつ改善されていき、自信につながっていった。

(8) 学習活動8 発表会をする。

① 指導・学習の過程

学年集会の中で、再度全体のテーマの「自分が輝いているか」の確認をし合った。そして、司会進行や、プログラム作りや、保護者や地域の方、ゲストティーチャーに招待状を書いて届けるなどの係を分担し、当日までに必要なものの準備をした。

当日は、会場準備をしたり、ゲストティーチャーをお招きしたりした。そして、各グループが順に発表を行った。多くの視線が集まる中、保護者の方々に観ていただく嬉しさから、堂々と表現する子、照れを隠しながら表現する子など、それぞれが自分なりに、精一杯の発表をした。すべてのグループが、中間発表後のアドバイスを取り入れ、成長が見られる発表になっていた。また、グループ内でお互いの頑張りについて認め合ったり、ほかのグループの心に残ったことを会話の中で伝え合ったりして、表現し終わったあとの充実感を持つことができた。

そして、最後に自分たちの輝いている姿を母校に残すため、五日間に分けて、休憩時間をつかって校内発表をした。校内発表は相手が自分たちより年齢が下ということもあり、分かりやすくするために、発表内容を見直したり、変更したりする必要があるグループもあった。しかし、たくさんの人に観ていただきたいという思いから、全校にチラシを配ったり、放送で呼びかけたりの宣伝活動をすることで、特

に低学年が楽しみに観に来てくれた。

子どもたちは、発表の回数が増えることで自信をもち、それぞれのグループで、工夫が見られるようになった。観客の反応を見ながら発表する余裕ができ、「自分たちの表現のことについて、もっと知ってほしい、たくさんの人に伝えたい。」という思いをもった。淀川太鼓・ソーラン節・新福山琴・手品・ダンスのグループは、自ら「一緒にしませんか。」と観客に呼びかけ、希望者に教えたり、一緒に活動したりして、観客と一体感をもつことができた。どのグループも相手を意識した表現になっており、発表すること自体を楽しんだ。

子どもたちは、追求・中間発表から通して合計 3 回～4 回の発表を経験したことになる。

② 評価結果

学習中の観察と、発表会後のふり返りカード(学習カード⑦)を使って評価した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
技能・表現	相手を意識しながら自信を持って表現し、伝えようとするができる。	32人	52人	0人

中間発表の時と比較して、1がなくなり自信をもって活動する子どもが増えている。表現活動に打ち込むことで輝くことができることに喜びを感じ、満足できた子どもが増えたということではないだろうか。また、自分が発表をすることで、誰かに喜んでいただけるということに別の喜びを感じた子どももいた。

<p>今日、ダンスグループの発表がありました。わたしも一緒に観にいきました。ダンスグループの人は、本番の時みんなの動きが合っていて「かっこいいな」と、ずっと思っていました。アンコールが観客の人からきて、低学年の人や先生も一緒に踊っていました。みんなが楽しそうにしている、良い発表だったと思います。 (S児)</p>	<p>今日、琴の発表が大休憩にありました。低学年の人が10人ぐらい来てくれました。二回ひきました。「琴を弾いてみたい人？」と聞いてみると、聞きにきてくれた人みんなが手を挙げてくれて、私も1年生の子に琴を教えてあげました。1年生が「ありがとう。」と言ってくれて嬉しかったです。 (S児)</p>
---	--

(9) 学習活動9 卒業に向けて、より自分を高めていける方法をみつける。

① 指導・学習の過程

リバータイムの活動を終えて、作文を書くことにした。リバータイムを通して自分が変わったこと、卒業に向けてこれから自分をどうしていきたいのか、書く視点を明らかにした。また、自分の成長に気づくことができるように、学習カードや感想をファイルしたポートフォリオをふり返って考えさせるようにした。

作文を書いている途中に、自分の成長がなかなか認められない子どもに対しては、「よく意見を出していたね」とか「発表の表情がよくなったよ」と声かけをした。

「目標がはっきりしていると、やる気が出た」などの感想があった。

自己分析表のポスターセッションをした。先生から、友だちが成長させたいと考えているところが複数見つけられたら、評価が3だと聞いた。ぼくは、いっしょうけんめい友だちの話を聞いて五つ見つけられたのでよかった。友だちも自分のことをよく考えているなあと思った。(M児)

② 活動の前に予め評価資料・カード等とその評価基準を開示する工夫と感想

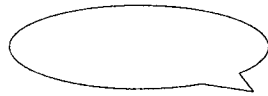
学習活動 8 発表会をする学習で、予め評価資料(学習カード⑦)を配布して評価基準を明示して学習を進めていった。すなわち、学習カード⑦を示すとともに、技能・表現の自己評価の項目について「大きな声が出せたか、表情をつけて発表できたか、動作は大きくできたか、見ている人の顔を見ながらできたか」の4つを設け、この内3つ以上できたら3だということを明示して学習を進めていった。

その結果、子どもたちは発表するときのめあてがはっきりし、自分が満足できる発表につながっていった。また、このような工夫によって一人一人が輝いて発表できたことが周りの人にも大きな感動を与えていった。

次のような感想が、計35人から寄せられた。また、他にも「自分のめあてがはっきりしていたので、いい発表ができた」「見ている人を意識して発表することができた」などの感想があった。

6年生リバータイム学習カード⑦			
月	日	曜日	名前
発表会を終えて...			
1.	どんなことに気をつけて発表しましたか。		
2.	発表してどうでしたか、自己評価をしてみましょう		
・大きな声が出せたかな	(はい・いいえ)		
・表情をつけて発表できたかな	(はい・いいえ)		
・動作は大きくできたかな	(はい・いいえ)		
・見ている人の顔を見ながら発表できたかな	(はい・いいえ)		
3.	見ている人の反応はどうでしたか。		

発表を終えてひと言どうぞ!



今日、参観日がありました。リバータイムの発表会をしました。私は、ダンスグループで恥ずかしがらずに堂々とおどれました。特に、表情をつけることと動作を大きくすることに気を付けました。これから休憩時間に他の学年にも輝いている自分を広めていきたいです。リバータイムを振り返ってみると今までで一番楽しかったなあと思います。だから、終わるのがすごく早く感じました。(T児)

(2) 第二レベルの工夫

中間発表と本発表の間で児童のめあての決定→活動→ふり返り評価の工夫を行った。そして、中間発表と本発表時では同じ評価資料・カードを準備し、両者の結果を比較することにした。

その結果を示すと、次のようであった。

	評 価 結 果		
	3	2	1
中間発表 (技能・表現①)	8人	58人	18人
本発表 (技能・表現①)	32人	52人	0人

すなわち、中間発表の後に、子どもたち一人一人に本発表に向けためあてを決めさせた。

そのめあてをもとに本発表に向けた活動を行い、本発表を行った。そして、発表後に振り返りを行った。

学年全体でより良い発表にするためにグループごとに良かったところ、直したらいいところをアドバイスし合った。そして、その結果、評価結果3が中間発表後は8人だったのが本発表後には32人に増えた。また、評価結果1は、中間発表後は18人だったのが本発表後には0人となった。

自分のめあてを決め、それに向かって活動し、その活動のふり返りをするのが好結果につながったと考えられる。その分、自己学習力が向上したといえよう。

<p>今日の間接発表はとても楽しかったです。他のグループのよいところ、悪いところも見つけられたし、みんな自分なりに好きな方法で輝いていると思いました。見ていてすごく楽しくて、本番はもっとよくなるからすごく楽しみです。私たちの発表は声がほんの少ししか出ていなくて残念です。表情もきん張してかたかったと思います。本番は、がんばって輝きたいです。(M児)</p>	<p>今日のリバータイムは一人一人が輝かなければなりません。だから、友だちとがんばりました。他のグループの発表は、中間発表よりもぐんとすごくなっていたし、ソーラン節もちゃんと踊れました。最後には、大きな拍手をもらったので嬉しかったです。おうちの人の感想が、とても楽しみです。(U児)</p>
--	---

2-3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

(1) 単元の総括的評価結果

本単元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については学習活動6-①、学習活動7-②の総和で、「思考・判断」については学習活動4-①、学習活動6-②の総和で、「技能・表現」については学習活動6-①、学習活動8-①の総和で、「知識・理解」については学習活動1-①、学習活動6-②、学習活動9-③の総和で行うことにした。

なお、考察に際しては、評価結果3は80%以上相当、2は60%~79%相当、1は5%以下相当の達成状況としてみなすことにした。

それぞれが目標をもって活動できたリバータイムだっただけに、文の長い短いはあるが、どの子どももポートフォリオを見ながら自分の思いを書いていた。

② 評価結果

作文を分析し評価を行った。自分のよさとさらに伸ばしたいことを複数書いた子どもを「3」、一つずつ書いた子どもを「2」、どちらか一方を書いた子どもを「1」とした。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
知識・理解	自分のよさが分かりさらに伸ばしたいことを見つけることができる。	42人	34人	8人

評価結果「3」の子どもが42人、「2」の子どもが34人で、合計76人の子どもが、自分のよさ、伸ばしたいところを書くことができていた。

学習活動1で自分のよさを書くことができなかった子ども15人のうち、3人が評価結果「3」、8人が評価結果「2」と増えていた。尚、4人は評価結果「1」であった。

評価結果が「1」の8人の児童は、自分の成長に満足感が得られなかったようである。

しかし、それでも「成長させていきたいこと」に関しては、全員の子どもが書くことができていた。自己肯定感がもてない子どもも、自分をより成長させたい、伸ばしたいという思いをもっていることが分かった。

学習活動1でも学習活動9でも「自分のよさ」を書くことができなかった4人の子どもは、文の中に自分のよさを書くことはできなかったが、「活動を通して自分の課題に気づいた」とか、「今すぐに力がついたとは思わないが学ぶことがあった」という考えをもっており、自分をもっと伸ばしたいと前向きに考えていることが分かった。

この「もっと成長したい」という気持ちを大切に、中学校へ向けての卒業までの日々、子ども達の成長をしっかり見つけ、認めながら、子どもが自己肯定感をもてるような教育活動を行っていきたい。

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

(1) 第一レベルの工夫

① 自己評価の工夫と感想

学習活動3 自己分析表「今の自分」を交流する学習で自己評価するとき、「友だちが成長させたいと考えているところが複数書けていたら3だよ」と説明してから児童に自己評価させるように工夫した。

その結果、子どもたちはポイントをしばった話の聞き方ができ、学習に対する意欲が高まってきた。

次のような感想が、計16人から寄せられた。また、他にも「集中して話が聞けた」

①「関心・意欲・態度」について

評価基準 評価規準	3	2	1	合計
関心・意欲・態度① (学習活動6 - ①)	28人	50人	6人	84人
関心・意欲・態度② (学習活動7 - ②)	79人	5人	0人	84人
①+②	107人	55人	6人	168人

総計すれば、評価3が168人中107人、評価2が55人であり、合計162人(96%)が目標を達成したことになる。評価規準である「自分のよさを見つけ、自分を磨き、伸ばしたいと意欲的に活動に取り組むことができる」とともに「友だちのよいところ、学ぶべきところを進んで見つけようとすることができた」と考えられ、学習効果が上げられたと判断できる。

②「思考・判断」について

評価基準 評価規準	3	2	1	合計
思考・判断① (学習活動4 - ①)	84人	0人	0人	84人
思考・判断② (学習活動6 - ②)	43人	41人	0人	84人
①+②	127人	41人	0人	168人

総計すれば、評価3が168人中127人、評価2が41人であり、合計168人(100%)全員が目標を達成したことになる。評価規準である「自分の成長した姿を表現するための方法を自分で考えている」とともに「ゲストティーチャーや友だちのよいところから自分に生かせるものを考えたり見つけたりしている」と考えられ、学習効果が上げられたと判断できる。

③「技能・表現」について

評価基準 評価規準	3	2	1	合計
技能・表現① (学習活動6 - ①)	32人	51人	1人	84人
技能・表現① (学習活動8 - ①)	32人	52人	0人	84人
①+①	64人	103人	1人	168人

総計すれば、評価3が168人中64人、評価2が103人であり、合計167人

(99%)が目標を達成したことになる。評価規準である「相手を意識しながら自信をもって自分らしさを表現し、伝えることができる」と考えられ、学習効果が上げられたと判断できる。

④「知識・理解」について

評価規準 \ 評価基準	3	2	1	合計
知識・理解① (学習活動1 - ①)	24人	45人	15人	84人
知識・理解② (学習活動6 - ②)	19人	52人	13人	84人
知識・理解③ (学習活動9 - ③)	42人	34人	8人	84人
①+②+③	85人	131人	36人	252人

総計すれば、評価3が252人中85人、評価2が131人であり、合計216人(86%)が目標を達成したことになる。評価規準である「自分の長所や短所に気づくことができる」とともに「今まで気づけなかった友だちのよさやゲストティチャーのよさに気づくことができる」「自分のよさが分かり、より自分を成長させる方法を見つけることができる」と考えられ、学習効果が上げられたと判断できる。

(2) 単元における個人内評価結果

次に、A児、B児の2名を事例にしながら、個人内評価の特質について検討することにする。そのため、まず、2人の児童の<個人評価結果表>を示すと、次のようである。

<個人評価結果表>

		学習活動①②③ (動機付け)	学習活動④ (問題把握)	学習活動⑤ (計画)	学習活動⑥ (追求①)	学習活動⑦ (追求②)	学習活動⑧⑨ (まとめ・発展)	評定
		第一段階				第二段階		
A児 (劇)	関・意・態	2		2	2	3		A
	思考・判断		3		3			A
	技能・表現				2	2	2	B
	知識・理解	3 3			2		3	A
B児 (ダン)	関・意・態	3		3	3	3		A
	思考・判断		3		3			A
	技能・表現				2	2	3	A
	知識・理解	2 3			2		3	A

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60~79%相当、Cは59%以下相当の達成状況を示している。

① 縦断的評価

表より、総括的評価をみると、A児の評定は「A・A・B・A」であった。B児の評定は「A・A・A・A」であった。

学習活動①～④までを第一段階とし、中間発表以後の学習活動⑤～⑥を第二段階とすると、A児は「技能・表現」は「2」推移しているが、他の観点は、二段階以降に「3」へ変化し、その結果評定のような達成状況になったと思われる。このようなA児の傾向は、学年全体においても全84名中55名に認められる。中間発表とその後のグループ間の相互評価を行ったが、効果的であったことがうかがえる。

一方B児は、第一・第二段階通じて4観点の中「関心・意欲・態度」と「思考・判断」「3」の状態推移し、「技能・表現」と「知識・理解」は第二段階において相対的な向上がみられる。単元を通じてバランスのとれた、高い発達的特質が認められる。

なお、このB児のような傾向の子どもは学年全体において全84名中25名に認められる。

② 横断的評価

A児は、学習活動の追求①から②にかけて、のあたりから、「関心・意欲・態度」の評価結果が向上している。追求①の段階で、ゲストティーチャーや友だちとかかわり、活動が自分にとって楽しみになったことがあげられるであろう。

「思考・判断」は安定している。特にA児は、観点に沿って記述することが日常生活の中でもされており、違和感なく取り組んでいたため、すべて「3」であった。

「技能・表現」が停滞している。A児は「相手を意識した表現をする」にややとまどいがみられたと考えられる。

「知識・理解」はバランスのとれた、高い発達的特質が認められる。

一方、B児の「関心・意欲・態度」と「思考・判断」は学習過程を通じて、安定して3であり、評定もAであった。また「技能・表現」も「知識・理解」も次第に向上した結果が認められる。B児のように評定が高く安定した児童が、全体で22名いた。これらの児童がグループ内をまとめるリーダー的な存在となって学習活動をすすめていた。

「技能・表現」は、追求②までは「2」であったが、まとめの段階で「3」と、評価結果がよくなっている。追求②の中間発表で、周りからの刺激を受けたり、発表の場数を踏んだりすることで、自信をもって表現することができたことがあげられる。

「知識・理解」は、ばらつきがある。これは、A児・B児だけに限らず、すべて「3」であった6名をのぞく78名において、同様の傾向がみられる。

一人一人の成長やよさをのばしていくためには、子ども自身に自己評価力をつけさせることと、今一度教師が、内容にかかわる評価基準を検討し、見直す必要があると感じた。